



すさき

ふれあいネットワーク

社協だより

第142号

令和2年(2020)10月1日発行
 編集発行 須崎市社会福祉協議会
 〒785-0007
 高知県須崎市南古市町6-3
 (0889)42-0736(代)
 FAX 42-7876
<http://susaki-syakyo.or.jp>
 印刷 有限会社 笹岡印刷所
 42-0244



赤い羽根共同募金

www.akaihane.or.jp

赤い羽根

検索

赤い羽根共同募金にご協力
よろしくお願いたします。



10月1日から「赤い羽根」

共同募金運動が始まります



じぶんの町を良くするしくみ
 『赤い羽根共同募金』

©BDP ©CraftEgg ©BUSHI

あなたは一人じゃない。

支える人がいて、支えられる人がいる。「助け合う」という言葉は、とても温かい言葉だと思います。
 そこには「人」がいて、「人」がいる。けっして一人じゃない。一人にさせない。
 「困ったときはお互いさま」の精神から始まった赤い羽根の募金活動。
 世の中の、誰もがしんどい今こそ、そのチカラを発揮するときです。
 意志あるお金、募金のチカラ。

～募金の使いみち～

昨年の須崎市の一般募金合計額は、3,451,904円でした。寄せられた募金はすべて高知県共同募金会へ送金し、須崎市共同募金委員会へは2,308,517円(総額の約67%)が助成されました。助成金は、須崎市内で活動している福祉団体やボランティア団体などからの要望額をもとに、審査委員会で精査し、別表のとおり要望団体に助成され、一人暮らしの高齢者の支援活動や障がいのある方の社会参加活動などの地域福祉活動に充てられています。また、残りの約33%は、広域的事業として高知県内の福祉施設やボランティア団体などの支援に充てられています。

※須崎市共同募金委員会では、毎年4月以降に助成金の申請受付を社協だよりなどで告知しています。

(別表) 令和元年度募金による令和2年度事業への助成

団体等	助成額(円)	団体等	助成額(円)
須崎市民生委員児童委員協議会	582,000	須崎市精神衛生家族の会(双葉会)	29,000
須崎市子ども会連合会	48,000	かわうそ手話サークル	38,000
須崎市老人クラブ連合会	297,000	須崎市ボランティア連絡協議会	155,000
青少年育成市民会議	48,000	社会を明るくする運動実施委員会	19,000
須崎市身体障害者連合会	67,000	招き猫の会	29,000
須崎市手をつなぐ育成会	80,000	須崎市社会福祉協議会	878,517
須崎朗読研究会	38,000		
		合計	2,308,517

～みんなで支える地域福祉～

赤い羽根共同募金会には、毎年さまざまな福祉団体や当事者組織、社会福祉施設などから助成の要望がよせられています。赤い羽根共同募金は、さまざまな団体がより良い活動ができるように、要望額をもとに募金の目標額を設定する計画募金となっています。その内容としては、広域的事業に対するA助成目標と市町村単位の事業に対するB助成目標とがあります。

本年須崎市では、A助成目標額が1,204,000円、B助成目標額が3,000,000円として、総額4,204,000円を目標額に設定して募金運動に取り組みます。

みんなで支える地域福祉の基礎となる戸別募金の一世帯当たりの目標額は600円です。町内会長さんや部落長さん、民生委員さんなどの奉仕者を通じてご案内しますので、温かいご協力をよろしくお願い致します。

～募金の取り組み内容～

- 戸別募金・・・町内会や部落会などを通じて、各世帯にご協力をお願いします。
- 街頭募金・・・駅前やデパート、イベント会場などで募金への協力を呼びかけます。
- 学校募金・・・福祉教育や人を思いやる心の育成を目的に小中学校の児童生徒への協力を呼びかけます。(歳末たすけあい募金)
- 職域募金・・・企業や各種団体などで働くみなさんに募金のお願いをします。
- 大口法人募金・・・趣旨をご理解いただき、大口(1,000円以上)でご協力をいただきます。



みんなで知ろう！介護保険！

介護保険制度とは、日々の生活において支援が必要な状態になっても、できる限り自宅で自立した生活を送れるよう、必要な介護サービスを総合的、一体的に提供するためのしくみです。

！！須崎市には介護保険に関する主たる窓口が2か所あります！！



介護保険サービスの
相談をしたい！
どこにいけばいいの？

相談や手続きの
内容によって窓口が
変わります！



須崎市地域包括支援センター

須崎市南古市町6-3 須崎市立交流ひろばすさき3F

- ・介護保険サービスの利用に関するご相談
 - ・介護予防ケアプランの作成
- ・認知症や虐待、介護の内容に関するご相談 など

須崎市長寿介護課

須崎市山手町1-7 総合保健福祉センター1F

- ・介護保険の申請や要介護（要支援）認定に関すること
 - ・介護予防事業に関すること
- ・介護保険の運営や介護保険料に関すること など



☆詳しいご相談、お問い合わせは → 須崎市地域包括支援センター☆
(6月より交流ひろばすさきへ移転しています) ☎0889-42-1206

新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少し、生活にお困りの方へ・・・

住居確保給付金

のご案内

須崎市が定める額を上限にお住まいの住居の家賃額を支給します。

※支給にはいくつかの要件がございます。

どなたでもお気軽にご相談ください。

相談窓口 須崎市生活支援・総合相談センターほっと

☎ (0889) 40-0358

令和2年度須崎市老人クラブ連合会行事中止のお知らせ

『須崎市いきいき体育大会』

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からやむを得ず、開催を中止いたします。

楽しみにしていた皆様や、ご参加いただいていた住民の皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解のうえご了承ください。

須崎市老人クラブに加入しませんか

仲間づくりを通して、生きがいと健康づくり、生活を豊かにする楽しい活動です。

明るい長寿社会づくり、保健福祉の向上に活動しています。

知識や経験を活かしたり、新しい能力も発揮できます。

お問い合わせ先 須崎市老人クラブ連合会

連絡先：0889-42-0736 事務局担当（宮本まで）

南中学校福祉体験

6月12日（金）南中学校において3年生が福祉体験を行いました。

はじめに、外出時など、高齢者・障害者を見かけたときに注意すべきことを説明し、高齢者や障害者が、日頃、日常生活の中でどのようなことに困っているのか、体験を通じて改めて学習しました。参加した生徒さんには、高齢者や障害者が自由に外出して当たり前前に社会とつながりを持つには、地域の皆さんの支える力が大切な役割を担っていること、また今日の体験学習で学んだことを地域の皆さんにもっと理解してもらうために、まずは身近な人にお話しして欲しいです。困っている方を見かけた時に周りの人が、「お手伝いできることはありますか？」と一声かけてくれる勇気を持つことが高齢者・障害者にとっても大きな力になっています。



「手引き歩行」はみんなもできる手助けの一つです。
マナーを知ってお互いが気持ちの良い援助をしましょう。

訪問介護スタッフ（登録ヘルパー）募集中!!

『空き時間』で柔軟な働き方を・・・
週1日からでもOK!!

●求める人材

介護職員初任者研修（ヘルパー2級）以上

●お仕事内容

ご利用者様へのオムツ交換や移乗介助、入浴介助などの身体介護や
その他生活援助サービス

詳細は面談にてご説明します。まずはお電話にてお問合せください。

ヘルパー室

電話 0889-42-0789

(平日9:00~17:00)



車イスの無料貸出サービス

須崎市社会福祉協議会では、車イスの無料貸し出しサービスを行っています。
貸し出し期間は最長2ヶ月間です。

○ケガなどで車イスが必要な方

○介護保険認定外の方で……通院、外出等

○その他

お問い合わせ下さい。

【問合せ先】須崎市社会福祉協議会

☎0889-42-0736

香典・祝儀などのお返しは須崎市社会福祉協議会

善意銀行へ

善意銀行は、皆様の善意をお預りし
地域福祉の推進に活用させていただきます。

須崎市南古市町6-3（交流ひろばすさき3F）

社会福祉法人 須崎市社会福祉協議会「善意銀行」

あったかふれあいセンターまちなかサロン山手町紹介

<山手町> 認知症サポーター養成講座

令和2年7月27日（月）「認知症は決して他人事ではない、そして特別な病気ではない」をテーマに、認知症を正しく理解し、地域で認知症の方を支えることができる「認知症サポーター」がこの日12名誕生しました。須崎市包括支援センターより「認知症とは？」を詳しく教えていただき、寸劇では「ご近所さんが最近ゴミの出し方が分からなくなった」という場面を皆さんで考え、「自分だったらどのように接してほしいか？」「どのように接することが相手を傷つけずに、ゴミの出し方の問題を解決できるか？」を考えると、参加者さんより「ゴミの日に声をかけて一緒に出してあげる」や「分別を手伝う」など、やさしい声掛けが聞こえてきました。

今後、山手町ではこの12名のサポーターさんによるやさしい関りが見られることでしょう。

あなたも私も
認知症サポーター



ゴミは今日
じゃなかった
かねえ？



今日は燃える
ゴミですねえ

不燃物は来週やねえ、
一回持って帰って、
来週一緒に出そうか？

認知症の初期の
症状は・・・



今年もピカボラ ~ピカッと光り輝く夏のボランティア体験~

今年も8月13日（木）書道教室と8月17日（月）ペットボトルリユース実験へボランティアとして須崎総合高等学校から2名、小津高等学校から2名が参加してくれました（写真は17日のものです。）

両日とも、高校生のお兄さん、お姉さんが一緒に小学生8名も楽しく和気あいあいとイベントを終了することができました。終了後、参加した高校生も体験を振り返って「子供たちが喜んでくれたことが嬉しかった」「貴重な体験ができた」「自分も楽しむことができた」との感想を頂きました。

高校生向けのピカボラですが、実はこの日、サロン利用者の男性2人もボランティアとして参加してくださっています。小学生のサポート役ですが、実験の時には、お二人とも目がキラキラし、まるで少年のようでした。このお二人をはじめ、ある日は利用者として、またある日はボランティアとして活躍されている方はサロンにたくさんいらっしゃいます。

今年の夏休みイベントには、例年お世話になっている、書道の田村峯月先生、華道の吉村昌子先生、ペットボトルリユース実験では、和田真理先生にもご協力いただきました。ありがとうございます。

あったかふれあいセンターは、このように講師の先生やボランティアさんに支えられながら運営をしています。そんなあったかふれあいセンターまちなかサロン、気になった方はぜひ一度遊びに来てくださいね。スタッフ一同心よりお待ちしております。

ここをテープで
止めて・・・



どれ？できょうかな？



出来た！！

